

---

# ポケモン達と光と影の世界

フレア

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ポケモン達と光と影の世界

### 【Nコード】

N3026Y

### 【作者名】

フレア

### 【あらすじ】

この世界はポケモン達の世界。  
さまざまな歴史の時を越え、  
現在は平穏な世界になっていた。  
その世界で新たな歴史がまたひとつ…。  
その歴史にとあるポケモン達が巻き込まれていく。  
この運命の先にあるものは…。

## プロローグ（前書き）

初心者による初作品ですので、  
こつしたらいい。などの指摘は  
どんどんお願いします。

## プロローグ

この世界はポケモン達の世界。  
さまざまな歴史の時を越え、

現在は平穏な世界になっていた。

その世界に新たな歴史が刻まれようとしていた…。

光と影。時空が異なるこの二つが世界を

揺るがすことになるということはまだ誰も知らない。

今の運命は変えられない。

だが、未来の運命は変えられる。選ばれし者は、

未来の運命を託される。その運命を

光に変えるか、影に変えるかは、

その選ばれた者次第。

今、ここに新たな一つの歴史が動き出す！

## プロローグ（後書き）

とまあ大胆に始めましたが、主人公等は次回です。  
（最初ってだいたいどうすればいいんだ…）

## 第1話 始まり(前書き)

はい、ついに始まります。小説書くのはこれが初めてなので温かい目で見てください。(普通でもいいけど)考えました。悩みました。何度も行き詰りました。やっぱり小説って書くのも楽じゃないな。それでは、どうぞ!!

## 第1話 始まり

この世界のとある場所にある小さな町、ウィツシユタウン。とある日、この町に住むポケモン達がバトルをしていた。

マグマラシ「これで決まりだ！かえんぐるま！」

マグマラシのかえんぐるまが相手のマツスグマに命中する。

マツスグマは倒れた！

審判「マツスグマ戦闘不能！よってこのバトル、マグマラシの勝利！」

マグマラシ「ヨッシャー！また勝ったぜ！」

周囲のポケモン達が歓声を上げる。

「お疲れ様。マグマラシ！」

声をかけたのはジャノビーだった。

ちなみにマグマラシとジャノビーは幼馴染であり、この小説の主人公である。

ジャノビー「やっぱりマグマラシって昔からなんか強いよね！」

マグマラシ「そうか？」

そこへ町のポケモン達がマグマラシめがけて走ってくる。

「キヤー！ー！ー！マグマラシ様！ー！ー！ー！」

マグマラシ「ってまたかよ！」

実はこのマグマラシ、色違いであるためか、

よくポケモン達に追っかけられている。

ジャノビー「ってまた追いかけてるし、マグマラシ。」

マグマラシ「わりい、ジャノビー。また後でな！」

そう言っただけでマグマラシは自分の家の方へ走って行った。

「ただいま！ー！」

滑り込むようにマグマラシが家に入っていく。

「おかえり。で今日は何をしてたの？」

マグマラシの母親であるバクフーンが言った。

「バトル。また勝ったけどね。」

「そうなの。やっぱり、あなたってどこかお父さんに似てるわね！」

「ねえ、父さんってどの位強いの？」

「そうねえ。いつも私の事を守ってくれたのよ。」

今は旅に出てるけどね。」

数年前までは父親も一緒に暮らしていたが、旅に出たらしい。

なんでも、もっと強さを極めたいからだとか。ちなみに父親も

バクフーンであり、マグマラシは父親についてはあまり詳しく覚えていない。

「母さん、俺も旅をすれば強くなれるかな？」

「うん、きっと強くなれるわよ。だってあなたは

母さんと父さんの子なんだから！」

母親のバクフーンがそう言うのとマグマラシは決心したのが、

「ねえ、母さん。俺も旅をしてもいいかな？」

「いいわよ。あなたも父さんみたいに頑張りなさい！応援してるからねー！」

「ありがとう、母さん！俺、頑張ってもっと強くなるからー！」

## 第1話 始まり（後書き）

どうでしょうか？自分ではグダグダな感じがします。  
なにか意見等ありましたら、コメントでどうぞ。  
これでも頑張った方だからな！？

## 第2話 ジャノビーの決心（前書き）

第1話から少しグダグダ感が解消されたとは思いますが、頑張ります。ちよつとややこしい感じ（？）がします。

それと更新は不安定なのでご了承下さい。

第1話は最大の壁だったな…。

マグマラシ「なにいつてんの。この作者…」

何って… まあ、とりあえず第2話の方を。

「じゅっくり、どうぞー！」

## 第2話 ジャノビーの決心

ジャノビーは ポケモン達に追われていたマグマラシの様子を見にマグマラシの家へ向かった。

ジャノ「こんにちは！」

バク「あら、ジャノちゃん、こんにちは。」

ジャノ「マグマラシ！大丈夫だった？」

マグ「ああ、なんとかな。」

バク「今、うちの子と話をしているね。それで

この子、もっと強くなりたいから旅をするって。」

ジャノ「え。」

バク「フーンという言葉少し驚くジャノビー。」

マグ「ジャノ。俺、旅をすることにしたよ。

もっと強くなったり、世界のいろいろな事も

知りたいしね。」

ジャノ「そ、そうなんだ…。」

ジャノビーには両親と弟がいる。ジャノビー自身も一緒に旅をしようとは思ったが家族が理解してくれるだろうか…。

だが、自分の進みたい道を決めたジャノビーは思い切って言った。

ジャノ「ね、ねえ！マグマラシ！」

マグ「ん？」

ジャノ「私も一緒に旅をしてもいい？」

マグ「え、ああ。いいぜ。仲間がいれば楽しいし。でも

このことを親に伝えといた方がいいと思うぜ。」

マグマラシは結構軽く、OKを出した。

ジャノ「うん。じゃあ、準備をして、家族に旅をするって言うてるから」

ちよっと待ってて。」

そう言うとジャノビーは自分の家へ走って行った。

マグ「俺も旅の準備しとかないと」

（ジャノビー側視点）

ジャノ「ただいま。」

ジャロード「おかえり。なんだか元気がない感じがするけど、なにかあったの？」

母親のジャロードが優しく聞いた。

ジャノ「ねえ、お母さん。突然だけど…。私、旅をしてもいいかな？」

ジャロ「あなただけで行くの？」

ジャノ「いや、マグマラシ君と…」

数秒ほど沈黙したが、ジャロードが答える。

ジャロ「フフツ、やっぱりジャノって昔からマグ君と仲良しなのね。」

ジャロードがそう言うのと再びこたえる。

ジャロ「行ってきなさい。お父さんには

私から言つとくから。」

ジャロードがそう言うのとジャノビーが顔を上げる。

ジャノ「え、本当にいいの？」

ジャロ「ええ。あなたもそろそろ旅をするお年頃になったしね。

マグ君と一緒に頑張つてきなさい！」

ジャノビーが少し涙目になりながら言う。

ジャノ「お母さん、ありがとう！私、頑張るから！」

そう言うのとジャノビーは早速、旅の準備を始めた。

## 第2話 ジャノビーの決心（後書き）

前書きでも言いましたが、更新が不安定であるため、

いつ次の話が出るかわからないので、定期的に

見に来てもらえたら有り難いです。皆さんが楽しめるように

僕も全力で頑張りますので応援よろしくお願いします。

話の終わらせ方が下手だと思う…

マグマラシ「そんな調子で大丈夫か？」

大丈夫だ！任せとけ！

### 第3話 旅立ち（前書き）

4日前に投稿予定だったんですが、  
いろいろ事情がありまして遅れました。  
理由はあえて言わずに素直に謝ります。

「すみませんでした！！」

では第3話、どうぞ！

### 第3話 旅立ち

（ジャノビー側視点）

ジャノビーはつるのムチを器用に使い、旅の必要なものを準備していた。

ツタージャ「お姉ちゃん、遊ばー。」

そこへ弟のツタージャが来た。その声を聞いたジャノビーが答える。ジャノビー「ごめんね、タージャ。今、旅の準備をしてて、ごめんね。」

ツタージャ「旅？」

ツタージャが何かを気にしながら聞く。

ジャノビー「うん。旅はいろんな町や名所を巡ったりするの。」

ツタージャ「それってしばらく帰ってこないってこと？」

ジャノビー「うん、そうなるかも…。」

それを聞いてツタージャが少し泣きそうになりながら言う。

ツタージャ「ぼ、僕。お姉ちゃんがいないと、さびしいよう。」

それを聞き、ジャノビーがツタージャの頭をなでながら言う。

ジャノビー「大丈夫よ。お母さんとお父さんがいるわよ。」

それにあなた、男の子でしょ。」

ジャノビーがそう言うのと、ツタージャが言った。

ツタージャ「うん、わかった！僕待ってるからお姉ちゃんがんばってね！」

ジャノビー「ありがとう！お姉ちゃん、頑張ってくるからね。」

ジャノビーが笑顔でそう答えた。

そして、旅立ちの時。

（通常視点）

マグ「それじゃあ、母さん。行ってくるよ。」

バク「気をつけてね。それとこれ、持って行きなさい。」

バクフーンがマグマラシにお守りを渡す。

マグ「これは？」

バク「昔、お父さんが使ってたものよ。持って行きなさい。」

マグ「ありがとう。母さん！」

バク「行ってらっしゃい！それとジャノちゃん、マグマラシのこと、よろしくね。」

ジャノ「はい！任せてください。」

ジャロ「ジャノ。思いっきり楽しんでらっしゃい！マグ君と一緒に頑張るのよ！」

ジャノ「うん。わかってるよ。」

タージャ「お姉ちゃん、行ってらっしゃーい！頑張ってね。」

ジャノ「うん！」

マグ「よっし。いくぜ、ジャノ！」

ジャノ「うん。これからよろしくね！マグ君！」

こうして、2匹の旅が始まるのであった…。

### 第3話 旅立ち（後書き）

さて、これからどのような出来事が起きるのか。

次回から本気で頑張っていきますので、

よろしく願います。

マグ・ジャノ「応援よろしく〜！」

それと意見・指摘等ありましたら、

コメントにてよろしく願います

## 第4話 最初の町 ストリートタウン！（前書き）

この小説が始まってから19日目でやっと旅に入りました。

マグ「やっとかよ。時間かけすぎじゃね？」  
ジャノ「ちよつと遅すぎない？」

ごめん！俺の方もいろいろあつてな…。  
頑張つて考えてたからそこは許してくれ。

それと読みやすくするために、1行ごとに空白つくつたけど、どうかな？

まあ、読みづらいつていう人が多かったら、戻します。  
それでは…

作者&amp;amp;マグ&amp;amp;ジャノ「第4話、どうぞ…！」

#### 第4話 最初の町 ストリートタウン！

現在、マグマラシとジャノビーはウィツシユタウンを少し出た所にいる。

ジャノ「ねえ、マグ君はこれからどうしようと思ってるの？」

マグ「とりあえずいろんな町にあるジムを回っていろいろと思ってるけど…」

ジャノ「でもジムって確か3匹以上じゃないと挑戦権を与えられないんじゃないか？」

マグ「ああ、そこをどうすればいいかなんだ…。」

ジャノ「とりあえず、このまま進んで町にいこうよ！そうすればなにかあるかも！」

マグ「おう。じゃあ行くか。」

二匹は再び歩き出す。

20分ほど歩き、二匹は最初の町に着いた。

マグ「着いたな。で、この町は何だ？」

ジャノ「ストリートタウン。町の道が二つの出入り口に1本だけでつながってる町よ。」

マグ「この町にジムはなさそうだな。」

ジャノ「とりあえず、ポケモンセンターにいきましょう。」

町に着いた二匹は早速、ポケモンセンターへと向かった。

マグ「ん？なんかポケモン達が集まってるけど……。なんかあんのかな？」

**第4話 最初の町 ストリートタウン！（後書き）**

ごめんなさい。こちら側の都合により  
今回はここで終わります。短いですが、  
次回は少し長めに作りますので、  
よろしく願います。

**第5話 着いていきなり!? バトル大会開催! (前書き)**

はい、活動報告での投稿予告、大失敗です。すみません。  
いざ、パソコンの前に言って考えようとすると

思いつかない。話の先のこと、前書き、後書きばかり  
思いついてしまう。

これをどうにかしないと全然進まないな…。

それでは、どうぞ。

## 第5話 着いていきなり!? バトル大会開催!

ペラップ「はいはい、受付はこっちでお願いね」

ペラップが何やらポケモン達を列に並べている。

マグマラシとジャノビーは壁に貼ってある張り紙に目を向ける。

ジャノ「バトル大会…。誰でも参加自由だつて。」

マグ「お、バトル大会か！オレ参加しようかな？」

そこへとあるポケモンが話しかける。

「貴方達もバトル大会に参加するんですか？」

マグ「え？あ、うん。オレは参加しようと思ってるけど…。あんたは？」

ヨルノズク「はじめまして。私はヨルノズクです。よろしくお願ひしますね。」

ジャノ「はい。よろしくです。で、なんで私たちに声を？」

ヨルノズク「はい。この辺ではあまり見かけない種族だったので、ぜひ挨拶でもしようと思ひましてね。それと、そちらのマグマラシさんも

普通では見かけない色をしていましたから。」

ヨルノズクは二匹のことが気になるようだ。

マグ「ああ、これは生まれつき色が違うだけだから問題ないよ。」

ヨルノズク「やはりそうでしたか。これが噂に聞く色違いポケモンですね。」

実際に会うのは初めてで。良い体験をさせてもらいました。」

ジャノ「ヨルノズクさんも大会に参加するんですか？」

ヨルノズク「ええ、私も一応。」

マグ「じゃあ、オレも参加したら、おめーとバトルすることも!？」

ヨルノズク「あり得ないことはないですね。」

マグ「よ〜っし!オレもこのバトル大会、参加するぜ!

早く受付のところにいくぞ!ジャノ!」

ジャノ「ああ、ちょっとまって〜! それじゃ、ヨルノズクさん、また明日で。」

そう言うと二匹は受付の方へ向かって行った。

ヨルノズク「フツ。あの二匹、仲がいいんですね。」

くその日の夜く

二匹はポケモンセンターの宿泊施設にいた。

ちなみにポケセンは宿泊施設も運営している。

マグ「よっし。明日は気合入れていくぜ！」

ジャノ「マグ君。今日はもう寝ようよ。」

マグ「おう。そうだな。」

ジャノ「ねえ、明日はお互い頑張ろうね！」

マグ「もちろん！じゃ、おやすみ！」

ジャノ「おやすみ！」

そういつて二匹は眠りについた…。

**第5話 着いていきなり!? バトル大会開催! (後書き)**

次話投稿は3〜5日の間で話を考えて、投稿します。

マグ「そんな間隔で更新って、……大丈夫か?」

大丈夫だ。問題ない。(無茶?ですね。はい)

次話からバトル大会です。

二匹の活躍+ をお楽しみください。

ヨルノズク「ちょ、ちよつと+ って……。作者さんひど

く次回に続く

**第6話 バトル大会、開始！（前書き）**

かなり遅れました。すいません。

できる限り、遅れないように頑張ります。

では、始めます。それでは…

「Ready GO！」

## 第6話 バトル大会、開始！

朝の日差しが町を照らす。ポケセンのマグとジャノの部屋にも光が差し込んだ。

ジャノ「マグ君、おはよう！」

マグ「う、うん、あ、おはよう。」

マグマラシは少々寝起きが悪い。

ジャノ「どうしたの？寝起き悪い？」

マグ「う、うん。まあオレにとっていつものことだから気にスンナ。

それより早くいこつぜ」

ジャノ「うん！」

二匹はポケセンの玄関ホールへ向かった。

そこでポケセンのナース達が朝食配布をしていた。

ラッキー「みなさん、今日はバトル大会、がんばってくださいね。」

マグマラシとジャノビーも朝食を受け取る。

ラッキー「あなた達も頑張ってくださいね。」

マグ「ありがとな。オレ頑張るぜ！」

ジャノ「はい、ありがとうございます。」

二匹は受け取った朝食を食した。

それからしばらく待つと、大会案内のマリルリが入ってくる。

マリルリ「今回の大会参加者の方はこちらにお集まりください。」

呼ばれたポケモン達が集まっていく。

マリルリ「それでは大会開催地まで案内しますのでついてきて下さい。

詳しいルール等はそちらでお話します。」

マリルリがさういって、ポケモン達はそのあとをついていく。

マグ「いよいよだな。」

ジャノ「うん。」

そう言い、開催地まで向かった。

マリルリ「こちらの控え室で詳しいルールの説明後、

そのまましばらくお待ちください。」

しばらくするとパッチールが入ってきた。

パッチール「みなさん、お待たせしました。

これから詳しいルール等の説明をさせていただきます。」

そう言い、説明を始める。

パッチール「今大会はトーナメント式シングル、道具の使用は禁止。

技に制限は無し、相手が先に戦闘不能で勝利です。

そして上位10名に賞金が渡されます。

もし何かしらの不正があった場合は失格ですのでご注意ください。

ルールは以上です。それではバトルフィールドの方へどうぞ。」

説明を終えるとパッチールが誘導する。

そして、ポケモン達がフィールドに入場する。

それと同時に観客達の歓声が高まる。

「みなさん！今日はここ、ストリートコロシウムに

お集まりいただきありがとうございます！

司会は私、ペラップでお送りさせていただきます!」

ちなみにこのペラップは、前の話で出てきた者ある。

ペラップ「ではみなさん、早速ですが

バトル大会を始めさせていただきます。

みなさん、掛け声の準備はよろしいですか?」

観客達がペラップに合わせる。

ペラップ「それでは、いきますよ!」

全員「レッツ、バトルスタート!!!」

## 第6話 バトル大会、開始！（後書き）

一つ一つの話の終わらせ方がいいのか、悪いのか

いまいちわからないです。

それと、なぜか細かいところまで書いてたりしちゃってます。

理由は分かりません。書き終えたら、なぜか自然と

そうなってることが多いです。

バトルは次の話からです。

勘弁して下さい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3026y/>

---

ポケモン達と光と影の世界

2011年12月16日02時49分発行